

アーカイブ Data Report

NO. 210

(2023年3月13日)

〒500-8813 岐阜県岐阜市明德町10番地 杉山ビル5F
E-mail: shikaku@npo-nak.com URL: https://npo-nak.com

NPO 日本アーカイブ協会・岐阜女子大学*・沖縄女子短期大学・遠隔教育振興会

(*岐阜女子大学デジタルアーカイブ専攻・研究所、沖縄サテライト校)

豊かな感性と表現を育てる遊びの継承について ～保育者に向けた手作り玩具の体験と教材開発～

石嶺 里菜・加治工 尚子 (岐阜女子大学)

地域に伝わる昔遊びの継承 ～手作り玩具編～

わらべうたや昔遊びは、地域、学校、家庭などで様々に継承されてきたが、近年、その機会が失われつつある。先行調査では、昔遊びを積極的に取り入れている保育園はあるものの、保育者自身が伝承玩具で遊んだりした経験がほとんど無く、理解不足を感じていることがわかった。

そこで、保育現場での子どもへの昔遊びの継承を促すことを目指し、保育者自身が昔の遊びに興味関心を持ち、日常生活の中に取り入れていけるようなデジタルコンテンツの開発を試みた。

〈 地域の自然素材を活かした草玩具 〉

今回は、沖縄地域で伝承されている昔遊びのうち、草を編んで作る玩具とそのアレンジについて紹介する。とくに、海岸線でよく見かけるアダンや御嶽などの拝所でみかけるクロツグ（マーニ）の葉は、少し加工すると細長い帯状になるため、様々な玩具の素材として重宝されている。これらの玩具づくりの工程については、書籍や資料を参考にしたほか、沖縄県内の青年の家などで長年クラフトの指導をされている照屋氏から直に教わることができた。また、身近にある植物の特性や扱う際の注意点などを伺い、採取・加工・制作の流れを静止画と動画で記録した。



図1 クロツグの葉を利用した玩具の作例 (照屋寛信 作・提供 写真撮影:筆者)

〈 素材の加工と先人の知恵 〉

・トゲカッター：アダンの葉には中央と両端にトゲがあるため、編み込んで利用する際に取り除く必要がある。照屋氏からアダンのトゲを利用したカット方法を紹介していただいた。

・作品を保存するためのひと手間：図1の作例では、乾燥させたクロツグの葉を用いている。そのため、形が崩れにくく、長期間の保存が可能である。クロツグの葉は棒状になって2～3mほど伸びてから広がるため、草玩具づくりでは、葉が広がる前の状態のものを採取すると扱いやすい。(図3)

採取してすぐの葉は、透きとおった薄緑色をしている。柔らかく加工もしやすいため、その場遊びには最適である。ただし、時間の経過とともに収縮して形が崩れるため、保存には向かない。作品を残したい場合は、棒状の葉を3か月ほど乾燥させてから帯状にカットして用いるとよい。

〈 保育者に向けた手作り玩具教材の開発 〉

多忙な保育者が自然素材を日常的に準備することは困難を要する。そこで、比較的入手しやすいクラフトバンドやPPバンドなどを利用して楽しく作れることを紹介し、保育者がいつでも確認できるよう Google サイトにまとめて公開した。まずは、保育者自身に昔の遊びに興味・関心を持ってもらえるよう、既存の諸資料を分析しつつ、保育現場で活用しやすいデジタルコンテンツとしての提供を目指した。(図4「おきなわてづくりおもちゃ」は、作品集とその作り方、植物の紹介などで構成した)

〈 勤務園での遊びの実践の様子 〉

子どもたちとおきなわの玩具づくりを体験することで、多くの驚きと発見があった。生き物に詳しい子がいたり、カエルの玩具を可愛がったり、ストローのラッパ吹きが上手な子がいたりするなど、それぞれの良さが遊びの展開でみられた。

手間はかかるが、自然素材に触れる遊びはこれからも大事にする必要がある。現場での実践活動の助けとなるよう、教材の工夫・改善を続けていきたい。



図5 遊びの実践の様子



図1 加工時の注意点等を動画で記録



図2 アダン葉のトゲでトゲを除去

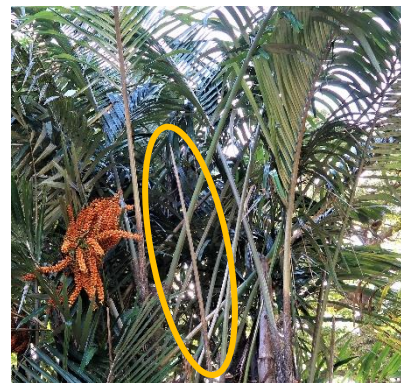


図3 クロツグの葉が開く前(棒状)



図4 デジタルコンテンツの一部